

# 令和8年産 果樹病害虫防除暦・施肥例

使わない!! 無登録(登録外使用)農薬  
海草振興局農林水産振興部  
農業水産振興課監修  
令和7年12月現在

温州みかん・かんきつ類 みかんとかんきつ類は登録内容が異なる場合があるので注意!!

防除時期	対象病害虫	防 除 薬 剤 名	使用倍数	使用基準		備 考
				みかん	かんきつ	
3月中下旬	ミ カ ン ハ ダ ニ	ハ ー ベ ス ト オ イ ル	60～80倍	3月／—		発芽前に散布する。 ミカンハダニを対象とする場合は80倍 中晩柑類は収穫後に散布する。
	カイガラムシ類幼虫	ア プ ロ ー ド 水 和 剤	1,000倍	14/3	45/3	
4月	そ う か 病	デ ラ ン フ ロ ア ブ ル	1,000倍	30/3		シャクトリムシ類・ケシキスイ類発生園では、ロディー乳剤2,000倍(7/4)を散布する。
満開期～落弁期	灰 色 か び 病	ナ テ ィ ー ボ フ ロ ア ブ ル	1,500倍	前日/3		昨年カイガラムシ類が発生した園地では、モベントフロアブル2,000倍(7/3)を加用する。 モスピラン顆粒水溶剤に替えてエクスレールSE5,000倍(前日/3)を散布してもよい。
	黒 点 病	モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	3,000倍	14/3		
6月上中旬	コ ア オ ハ ナ ム グ リ	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	600倍	30/4	90/2	※ジマンダイセン水 and 剤またはベンコゼブ水和剤の代わりにエムダイファー水和剤600～800倍みかん(60/2) かんきつ(90/2)でもよい。(エムダイファー水和剤は令和8年10月登録失効)
	ア ブ ラ ム シ 類	ハ ー ベ ス ト オ イ ル	200倍	—／—		
	黒 点 病	ダ ニ コ ン グ フ ロ ア ブ ル	4,000倍	前日/1		
	ミ カ ン ハ ダ ニ	ア ド マ イ ヤ ー フ ロ ア ブ ル	3,000倍	14/3		
7月上旬	ゴマダラカミキリ・アザミウマ類	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	600倍	30/4	90/4	カイガラムシ類発生園では、トランスフォームフロアブル2,000倍(前日/3回)を散布する。※ミカンハダニ類多発園では、グレースフロアブルに替えてメビウスフロアブル3,000倍みかん(7/2) かんきつ(14/2)とダントツ水溶剤2,000倍(前日/3回)を散布する。
	黒 点 病	ベ ン コ ゼ ブ 水 和 剤	4,000倍	7/2		
8月上旬	チャノホコリダニ	グ レ ー シ ア フ ロ ア ブ ル	4,000倍	7/2		
	ミ カ ン サ ビ ダ ニ					
8月上旬	ゴマダラカミキリ					
	黒 点 病					
8月上旬	アザミウマ類・チャノホコリダニ・ミカンハモグリガ・サビダニ	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	600倍	30/4	90/4	※9月出荷の品種については、ナティーボフロアブル1,500倍を散布する。
	黒 点 病	ベ ン コ ゼ ブ 水 和 剤	2,000倍	7/3		
8月中下旬	アザミウマ類・チャノホコリダニ・ミカンハモグリガ・サビダニ	ア グ リ メ ッ ク	2,000倍	7/3		※発生初期に防除を行う。
	黒 点 病	ジ マ ン ダ イ セ ン 水 和 剤	600倍	30/4	90/4	
	ミ カ ン ハ ダ ニ	ベ ン コ ゼ ブ 水 和 剤	1,500倍	前日/3		
	ミ カ ン サ ビ ダ ニ	ナ テ ィ ー ボ フ ロ ア ブ ル	2,000倍	前日/1		
9月以降	アザミウマ類	ダ ニ ゲ ッ タ ー フ ロ ア ブ ル	2,000倍	前日/3		※降雨状況により散布する。 ※発生に応じて散布する。
	黒 点 病	ダ ン ト ツ 水 溶 剤	2,000倍	前日/3		
9月以降	黒 カ メ ム シ 類	ナ テ ィ ー ボ フ ロ ア ブ ル	1,500倍	前日/3		※降雨状況により散布する。 ※発生に応じて散布する。
	黒 カ メ ム シ 類	ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤	2,000倍	前日/3		
収穫前	貯 蔵 病 害	ベ ン レ ー ト 水 和 剤	4,000倍	前日/4	前日/2	※収穫前に必ず散布する。 トップジンM水和剤、またはベンレート水和剤にベルクト水和剤2,000倍(みかん: 前日/3回 かんきつ: 前日/2回)を加用することで効果が上がる。
	貯 蔵 病 害	ト ッ プ ジ ン M 水 和 剤	2,000倍	前日/5		
果皮障害対策	防 除 薬 剤 に 加 用	バ イ カ ル テ ィ	1,000倍	—/3		7月～収穫までの防除薬剤に加用する。各月1回、3回以上

## 特殊防除

防除時期	対象病害虫	防除薬剤名	薬量と散布量	使用基準	備考
発芽前	かいよう病	ムッシュボルドーDF	500倍	—／—	
新梢伸長期	かいよう病	クプロシールド	1,000倍	—／—	薬害軽減対策としてクレフノン200倍を加用する。
入梅期	かいよう病	ICボルドー66D	80倍	—／—	ICボルドー66Dに替えてムッシュボルドーDF1,000倍を散布してもよい。 ただし、クレフノン200倍を加用する。
		アビオンE加用	1,000倍	—／—	
台風襲来前	かいよう病	クプロシールド	1,000倍	—／—	クレフノン200倍を加用する。
発芽直後	そうか病	デランフロアブル	1,000倍	30/3	
8月～9月	黒点病(後期感染型)	ナティーボフロアブル	1,500倍	前日/3	
		ランマンフロアブル	2,000倍	前日/3	
発生前	褐色腐敗病	レーバスフロアブル	2,000倍	前日/3	
		モベントフロアブル	2,000倍	7/3	
5月下旬～	ハマキムシ類 ヨモギエダシャク	エクスレールSE	5,000倍	前日/3	
		ダニコングフロアブル	4,000倍	前日/1	
発生時	ミカンハダニ	ダニサラバフロアブル	2,000倍	前日/2	※10月中旬以降で使用する。
	ミカンハダニ	オマイト水和剤	750倍	7/2	
	ミカンハダニ	メビウスフロアブル	3,000倍	7/2	
	ミカンハダニ・ミカンサビダニ	サンマイト水和剤	3,000倍	3/2	
	ゴマダラカミキリ	アクセルフロアブル	200倍	7/3	
7月中下旬 (株元散布)	ゴマダラカミキリ	モスピラン顆粒水溶剤	200～400倍	14/3	
	アザミウマ類・ミカンサビダニ	コテツフロアブル	4,000倍	前日/2	
発生時	アザミウマ類	ディアナWDG	10,000倍	前日/2	

## 施肥設計

	施 肥 時 期				10a当り成分量 (kg)				
							N	P	K
極・早生温州	1～3月		3月上旬		10月上旬				
	土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	ニューわかやま味-ブリケット 80kg (8-7-7)		ニューわかやま味-ブリケット 100kg (8-7-7)		14.4	12.6	12.6	
		または わかやま配合 80kg (8-5-6)		または わかやま配合 120kg (8-5-6)		16.0	10.0	12.0	
普通温州	1～3月		3月上旬		10月下旬				
	土壌改良 苦土入りセルカ2号 200kg	ニューわかやま味-ブリケット 120kg (8-7-7)		ニューわかやま味-ブリケット 140kg (8-7-7)		20.8	18.2	18.2	
		または わかやま配合 120kg (8-5-6)		または わかやま配合 150kg (8-5-6)		21.6	13.5	16.2	

◎土壌改良は毎年励行しよう。

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 2kg・BMヨーリン 60kg



◎農薬の使用基準は変更になる場合があるので注意しましょう。

◎農薬使用基準を守り、適期適正防除を行いましょう。

柿 富有柿は人工授粉を徹底!

防除時期	対象病害虫名	防除薬剤名	使用倍数	使用基準	備考
12月～3月	各種病害虫	粗皮削り及び落葉処理	—	—／—	特に、フジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガ・コスカシバ及び落葉病対策として、完全を実施する。
萌芽直前 (3月下旬)	カイガラムシ類	アブロード水和剤 アビオン-E	1,000倍 1,000倍	45/2 —／—	※開花期までに散布を行う。
展葉期 (4月中旬)	ケムシ類 ヒメコスカシバ フタモンマダラメイガ	フェニックスフロアブル	4,000倍	7/2	展葉初期にケムシ類発生園では、フェニックスフロアブルに替えてオリオン水和剤40 1,000倍(21/1)を散布する。
開花初期 (5月上中旬)	落葉病・炭そ病	ジマンダイセン水和剤 または ベンコゼブ水和剤	600倍	45/2	灰色カビ病多発園では、ベンコゼブ水和剤またはジマンダイセン水和剤に替えてフルーツセイバー 1,500倍(前日/3)を散布する。 夏果実隣接園では薬剤が飛散しないように注意する。
	チャノキイロアザミウマ カキクダアザミウマ ハダニ類	オルトラン水和剤	1,500倍 4,000倍	45/2 前日/1	
5月下旬～6月上旬	うどんこ病・落葉病・炭そ病・灰色カビ病 アザミウマ類	オンリーワンフロアブル キラップフロアブル	2,000倍 2,000倍	前日/3 7/2	果実黒変果軽減のため、バイカルティ1,000倍を混用散布する。 カンザワハダニ多発園では、キラップフロアブルに替えてコテツフロアブル2,000倍(14/2)を散布する。(着色期は除く)
	落葉病・炭そ病 カイガラムシ・チャノキイロアザミウマ類	キノンドー顆粒水和剤 コルト顆粒水和剤	1,000倍 2,000倍	14/5 前日/3	
6月中下旬	落葉病・炭そ病	ジマンダイセン水和剤 または ベンコゼブ水和剤	600倍	45/2	収穫前日数を厳守する(45日前) ジマンダイセン水和剤またはベンコゼブ水和剤に替えてエムダイファー水和剤600倍(45/2)を散布してもよい。 ※エムダイファー水和剤は令和8年10月登録失効
	カイガラムシ類 アザミウマ類	モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	前日/3	
7月上旬	うどんこ病・落葉病・炭そ病 アザミウマ類・カメムシ類 カキノヘタムシガ・ケムシ類	スコア顆粒水和剤	3,000倍	前日/3	キックオフ顆粒水和剤はジノテフラン(スタークル)とクロナトラニフロール(サムコル)が含まれている為、総使用回数に注意する。
		キックオフ顆粒水和剤	2,000倍	前日/3	
7月下旬～8月上旬	うどんこ病・落葉病・炭そ病 アザミウマ類・カメムシ類 カキノヘタムシガ	ベンレート水和剤	2,000倍	前日/6	着色初期にミカンキイロアザミウマ類発生園では、ディアンWDG5,000倍～10,000倍(前日/2)を加用する。
		アグロスリン水和剤	1,500倍	前日/3	
果皮障害対策	6月以降の薬剤に混用	バイカルティ(カルシウム肥料)	1,000倍	—/3	落花後以降の使用

## 標準施肥例

施肥時期				10a当り成分量(kg)			備考
				N	P	K	
1～3月		3月上旬		9月下旬～10月中旬			土壌改良は毎年励行しよう。 樹勢に応じた土壌改良を行う。
土壌改良 苦土セルカフミン 120kg		エコレット266 (12－6－6) 40kg		エコレット266 (12－6－6) 100kg		16.8 8.4 8.4	

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用。

梅(南高) 古城・小梅は収穫前日数に注意!

防除時期	対象病害虫名	防 除 薬 剤 名	使用倍数	使用基準	備 考
12月	越 冬 病 害 虫	石 灰 硫 黄 合 剤	10倍	発芽前/—	
1月中旬	灰 星 病 ノコメトガリキリガ (ハ ナ ム シ)	ペ ル ク ー ト 水 和 剤 サ ム コ ル フ ロ ア ブ ル10	2,000倍 5,000倍	30/3 14/3	※発生のない地域では散布しない。
		I C ボ ル ド ー 66D または Z ボ ル ド ー	500倍	登録外/—	
落弁期 (3月中下旬)	か い よ う 病	ナ テ ィ ー ボ フ ロ ア ブ ル	2,000倍	登録外/— 前日/2	Zボルドーにはクレフノン200倍を加用する。 ICボルドー 66Dを使用する場合は、ナ ティーボフロアブルと7～10日の間隔をあげ 散布する。
	灰 色 か び 病 ア ブ ラ ム シ 類	モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	4,000倍	前日/3	
発芽期 (4月上旬)	か い よ う 病	マ イ コ シ ー ル ド	1,500倍	21/4	
	黒 星 病 カイガラムシ類幼虫 (展 着 剤)	デ ラ ン フ ロ ア ブ ル ア ブ ロ ー ド フ ロ ア ブ ル ア ビ オ ン - E	2,000倍 1,000倍 1,000倍	14/2 7/2 —/—	
幼果期 (4月中旬)	か い よ う 病	マ イ コ シ ー ル ド	1,500倍	21/4	かいよう病多発園では、コサイド3000 を2,000倍(硬核期まで/—)とクレフノン 200倍を加用する。
	黒 星 病	ベ ン コ ゼ ブ フ ロ ア ブ ル	1,000倍	21/3	
青果用小梅では、マイコシールド、オーソサイド水和剤80の収穫前日数に注意する。					
肥大期 4月下旬	か い よ う 病	マ イ コ シ ー ル ド	1,500倍	21/4	カイガラムシ類発生園では、モベントフ ロアブル2,000倍(7/3)を加用する。
	黒星病・すす斑病	オ ー ソ サ イ ド 水 和 剤80 または ス コ ア 顆 粒 水 和 剤	800倍 3,000倍	21/3 前日/3	
肥大期 (5月中下旬)	黒星病・すす斑病 ケムシ類・コスカシバ	ナ テ ィ ー ボ フ ロ ア ブ ル フェニックスフロアブル	2,000倍 4,000倍	前日/2 前日/2	ハダニ類発生園では、スターマイトフロア ブル2,000倍(前日/1)を加用する。
		インダーフロアブル	5,000倍	前日/2	
5月下旬～ 収穫前	す す 斑 病	または ス コ ア 顆 粒 水 和 剤	3,000倍	前日/3	
6月下旬		モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	2,000倍	前日/3	
7月上旬	クビアカツヤカミキリ	ダ ン ト ツ 水 溶 剤	2,000倍	前日/3	
7月下旬		モ ス ビ ラ ン 顆 粒 水 溶 剤	2,000倍	前日/3	

## 標準施肥例

施肥時期				10a当り成分量(kg)			備考
				N	P	K	
4月下旬		7月上旬		10月上旬		11～12月	土壌改良は毎年励行しよう。
エコレット266 (12－6－6) 50kg		エコレット266 (12－6－6) 50kg		エコレット266 (12－6－6) 50kg		土壌改良 苦土セルカフミン 120kg	

※土壌改良として、完熟堆肥 2,000kg、または、新ふりかけ堆肥eco 200kgを施用、微量要素補給に10a当りFTE 6kg。

## 希釈倍数表

倍数	10	50	60	80	100	150	200	300	500	600	800	1,000	1,500	2,000	3,000	4,000
水18ℓ当り薬量 (g、mℓ)	1,800	360	300	225	180	120	90	60	36	30	22	18	12	9	6	4
水100ℓ当り薬量 (g、mℓ)	10,000	2,000	1,666	1,250	1,000	666	500	333	200	166	125	100	66	50	33	25

## 防除記録簿例

住所：氏名：

作物：園場名：面積：a

防除月日	使用薬剤名・使用濃度(倍)	散布量(ℓ)
(例) 6/25	ジマンダイセン水和剤 (600倍)	750ℓ

○除草剤・植物生育調節剤の記入も忘れずに!

防除の際は飛散(ドリフト)に注意しよう!!

防除記録は必ず記載しよう!!